

【拠点形成概要及び採択理由】

機 関 名	関西大学
拠点のプログラム名称	東アジア文化交渉学の教育研究拠点形成
中核となる専攻等名	文学研究科総合人文学専攻
事業推進担当者	(拠点リーダー) 陶 徳民 教授 外 12 名

【拠点形成の目的】

■複合的アジア文化観をもつ人材の育成

東アジア世界を多対多関係の織りなす文化的複合体としてとらえ、それに立脚して国際交流や国際理解のための機関・組織で主導的役割を果たす人材を養成する。

■国際的発信力を持つ自立した若手研究者の輩出

世界標準としての3カ国語（英語、2アジア言語）の運用能力を持ち、グローバルな人的ネットワークのなかで世界水準を意識しながら活動できる自立した若手研究者を養成する。

■新たなディシプリンとしての文化交渉学の構築

「周縁アプローチ」によるパースペクティブの転換と文化接触の動態的把握によって従来の一国主義的な東アジア文化研究を革新し、新たな学問領域としての文化交渉学を世界に先駆けて構築する。

■国際的研究ハブの形成

各国で個別に行われている文化交流研究・対外関係史研究などを国際的ネットワークで結びつけ、東アジア各地域の文化研究をリードする研究ハブを形成する。

【拠点形成計画の概要】

■新専攻「東アジア文化交渉学専攻」の開設

人材養成とそれを支える研究の拠点として、文学研究科を改組し平成20年度に「東アジア文化交渉学専攻」を博士課程後期課程・前期課程同時に開設する。入念な研究計画書にもとづいて集団指導体制をとり、後期課程学生の半数は留学生を入学させる。課程博士に対しては「博士（文化交渉学）」の学位を授与する。

■文化交渉学を切りひらく人材養成の教育プログラムの展開

□研究活動と密接に連携したコア・カリキュラムを設計し、方法論の洗練、地域文化研究の具体的諸問題の探求、フィールドワークを伴う調査研究を有機的に関連させて、幅広い視野を持った次世代研究者を養成する。

□国際的発信力を強化するため、少人数制の集中的外国語教育速習プログラムを開発し、世界標準の外国語運用能力を習得させる。

□アジア文化の主要な教育研究機関と協力して留学生の交換派遣を拡大するとともに、共同授業プログラムを策定・実施し、それを基盤に若手研究者・院生の主導による「若手研究者国際学術フォーラム」を形成して、次世代の人的ネットワークを構築する。

□本プログラムの遂行のために COE 特別研究員・COE 助教・PD・RA など多様な役割を持つ若手研究者を雇用し、それぞれにインセンティブを与えながら自立して研究に従事するための経済的支援を多面的に行う。

■文化交渉学創生のための研究活動

従来の文化交流研究のパースペクティブを転換する「周縁アプローチ」の方法論を洗練・深化して、新しい学の体系としての文化交渉学を創生するための理論を構築する。その検証の場としてプログラム前半で、東アジアにおける中国文化の位置を相対化し、並行して「周縁地域」における文化接触の様態解明から周縁の相互関係が生み出す文化交渉のネットワークを導き出す。プログラム後半では、それを基盤にアジア文化研究のスキームを革新する文化的複合体としての東アジア文化像を提示する。

■国際的研究ハブ形成のためのネットワーク構築

アジア各国の自国研究において、他文化との接触・交渉を扱う文化交流研究・対外関係史研究などの分野は、必ずしも自立した学問分野としての地位を認められているわけではない。本拠点は、各国で個別に活動するそれらの研究者や研究機関を有機的に結びつけて、そのネットワークのハブとなる。それを母体としてレフェリー制の学術誌を有する国際学会を立ち上げる。

機 関 名	関西大学
拠点のプログラム名称	東アジア文化交渉学の教育研究拠点形成
<p>[採択理由]</p> <p>従来の一国対一国の文化交流（受容・流入・影響）とは異なる、多対多の新たな「東アジア文化交渉学」の世界最先端の教育研究拠点作り、そのための学長を中心とする強力なマネジメント・大学将来構想には、関西大学の強い意欲が感じられ、高い評価を与えることができる。</p> <p>人材育成面においては、若手研究者や大学院生に対する指導・支援体制は、国際学術フォーラム・2外国語習得の義務化を計画するなどきめ細かくかつ豊富に組み立てられており、本計画が実現する可能性が高い。</p> <p>研究活動面においては、関西大学の東西学術研究所とアジア文化交流センターにおける長年の研究成果と蓄積を踏まえて、新たに、海外活動拠点の開設、国際文化交流、学会の創設、アーカイブスの構築などが計画されており、着実であり実現可能性に希望が持てる。</p>	